

広島大学本部跡地の活用状況について

1 概 要

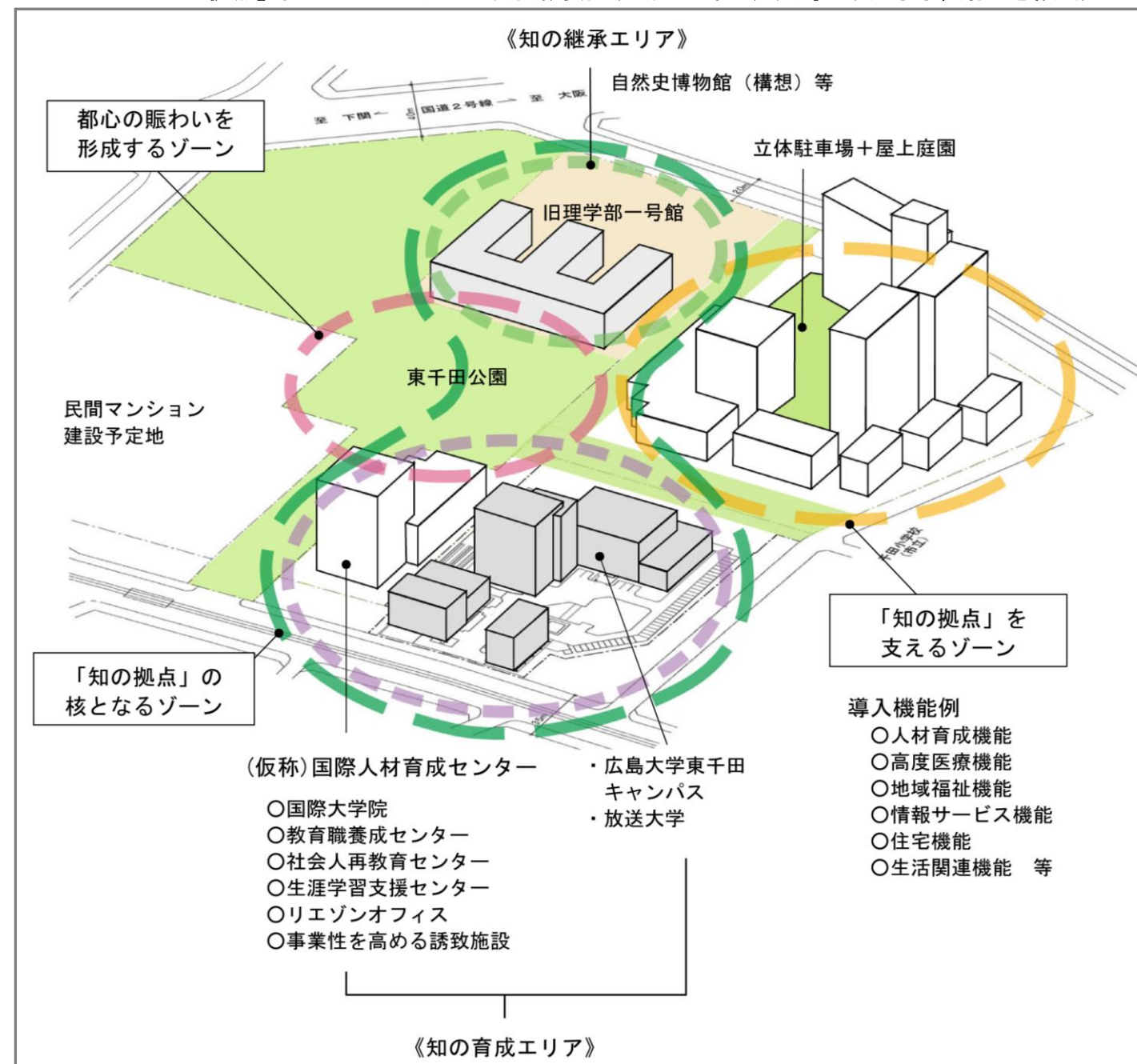
広島大学本部跡地は、都心に残された数少ない大規模未利用地であり、かつて広島教育の中心として栄えてきた経緯などを踏まえ、その有効活用を図る必要があります。このため、「知の拠点」の再生に向けて、各種都市機能の集積による新たな都心空間を創出するよう取り組んでいます。

この跡地については、平成 18 年 3 月に国立大学法人広島大学（以下「広島大学」という。）を中心とした広島地域大学長有志懇談会から「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト（仮称）」（以下「プロジェクト」という。）が提案されました。

このプロジェクトには、かつて広島教育の中心として栄えた当跡地の歴史的経緯などを踏まえ、国際人材育成センターなど「知の拠点」にふさわしい諸機能が盛り込まれています。

このプロジェクトの目標が実現できれば、地域の人材育成能力を高め、優秀な人材の輩出と地域への定着を促進するとともに、若者が定着する文化的環境を醸成するなど、広島市の都市としての魅力の向上や都心活性化に大きく資するものと考え、これまで、広島市と広島大学は、連携してその実現に向けて取り組んできました。

◆ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクトの計画概要図(平成 18 年 3 月広島地域大学学長有志懇談会)



2 各ゾーンの現状

プロジェクトでは、当跡地を3つのゾーンに分け、それぞれの整備の基本方針等を示しています。

(1) 広島大学東千田キャンパス（知の拠点の核となるゾーン《知の育成エリア》）

プロジェクトにおいて、「知の拠点の核となるゾーン《知の育成エリア》」に位置付けられており、「知の拠点」にふさわしい幅広い人材育成の拠点となるゾーンです。
当該エリアでは、広島大学が、同大学の医療系学生の教養教育や大学間、産業界等との連携などを行う「東千田未来創生センター」を整備し、平成28年4月に開設しました。

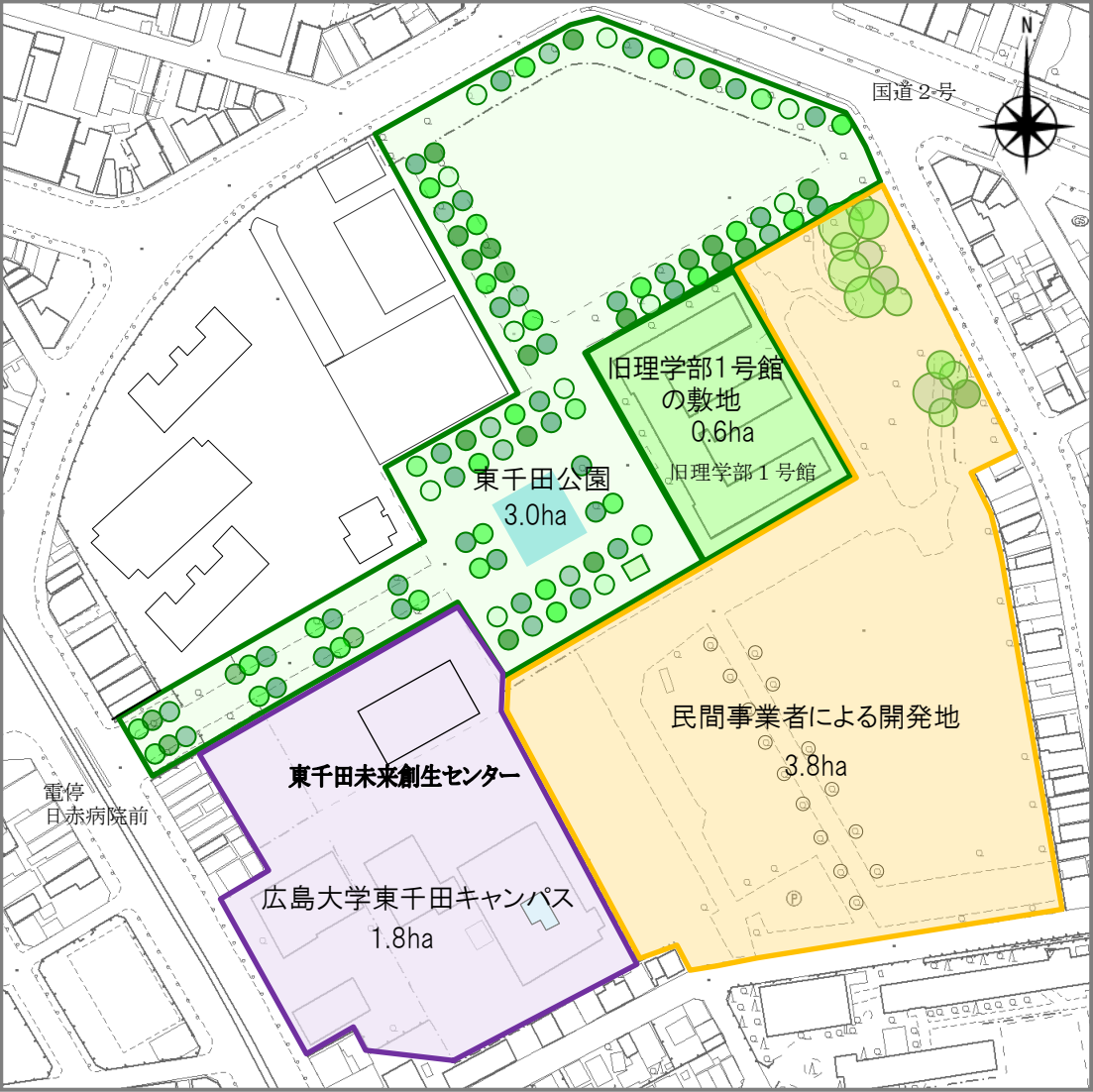
(2) 旧理学部1号館とその敷地（知の拠点の核となるゾーン《知の継承エリア》）

プロジェクトにおいて、「知の拠点の核となるゾーン《知の継承エリア》」に位置付けられており、被爆建物である旧理学部1号館を活用しつつ、新たな時代に向けて「知の継承」を図るゾーンです。
当該エリアについては、平成25年4月に広島市が独立行政法人国立大学財務・経営センター（当時）から無償取得し、現在、広島市が旧理学部1号館の保存・活用を検討しています。

(3) 民間事業者による開発地（知の拠点を支えるゾーン）

プロジェクトにおいて、「知の拠点を支えるゾーン」に位置付けられており、「知の拠点の核となるゾーン」との一体的な計画の下に、民間の資金とノウハウの活用により、「知の拠点」にふさわしい都市機能を導入し、一体性を持った都心空間の形成を進めるゾーンです。
当該ゾーンについては、公募型プロポーザル方式で平成25年12月に事業者を決定し、分譲マンションをはじめとして、6つの施設が整備される予定です。事業者は、平成27年7月以降、順次工事に着手しており、分譲マンション以外の施設は平成29年4月までに、分譲マンションは平成32年1月に完成する予定です。

◆広島大学本部跡地の土地所有区分図



◆民間事業者による整備スケジュール

